

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2779200647		
法人名	社会福祉法人 春栄会		
事業所名	グループホーム たんぼぼの里		
所在地	大阪府大阪市鶴見区今津南3-5-5		
自己評価作成日	平成22年5月24日	評価結果市町村受理日	平成22年8月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kai/gosi/p/infonat/ionPublic.do?JCD=2779200647&SOD=3>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会		
所在地	大阪府大阪市天王寺区東高津町12-10		
訪問調査日	平成22年6月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「温かく生命を守る」を理念に家族さん、スタッフと連携を取りながら利用者さんの生活が安定、安心して過ごせる様に支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○広い道路に面した、広大な土地に、同法人が運営する特別養護老人ホームに接して建てられており、連携しながら、地域とともに歩もうとする姿勢が伺えます。
 ○基本指針に「利用者本位」「地域社会との交流共生」を掲げ、「住み慣れた地域」で「馴染みある生活」を継続したいと願う、地域住民の思いに積極的に応えようとしています。
 ○居室やリビングは、施設を感じさせない造りになっており、肩肘を張らず家族的な支援が実践されています。綿密なアセスメント・ヒアリングにより、思いや希望を受けとめ、共に生きて行こうという全職員の意欲が感じられ、利用者にとっては、自分らしく過ごしやすいホームとなっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念についてスタッフ全員共有することに努めている。	「温かく生命(いのち)を守る」を理念とし、「利用者本位」「地域社会との交流共生」「生きがいを持ち自己実現を図る」「生活(QOL)の向上」「尊厳とプライバシーの尊重」「安らぎと潤いに満ちた生活」を支援の基本指針として掲げています。これらの理念と指針は、ホーム内に掲示するとともに、定例会議などで確認しつつ、実践につなげています。	運営や指針をパンフレット等にも掲載し、地域や利用者の方とともに、実現を図ることが望まれます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的ではないが地域のイベント時、ボランティアさんの踊り、お神輿など、交流している。	地域の要請に応じて設立された施設で、利用者のほとんどが区内居住者ということもあり、地域とのつながりは、極めて強いものがあります。ホーム自体や利用者が自治会や老人クラブに加入して、盆踊りや神輿・運動会・敬老祝賀会など、地元の行事に参加しています。また 見学希望者は随時受け入れており、日本舞踊やゲーム・職業体験・演劇などを通じて、地元のグループ・小中高との交流も図られています。日常の散歩・買い物などの中で、気軽に挨拶を交わし、さりげなく地域の一員として生活出きるような支援が行われています。	地域との交流は、多岐にわたって取り組まれ、地域の一員としてしっかり位置づけていますが、今後は 更に施設の情報を地域に発信するとともに、「認知症」「介護・支援」の研修会を開催するなど、地域との相互協力を図ることが望まれます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けた貢献ができていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて報告や話し合いは行っている。	運営推進会議は、利用者・家族・地域包括・地域代表者で構成され、4ヶ月に1回開催されています。地域から、町会や民生児童委員の代表者が参加され、地域密着の運営が企図されています。 利用者の状況、生活状態や支援実態の報告とともに行事計画・緊急時の対応などについて討議され、議事録は出席者に報告するとともに、全職員に周知されています。	運営推進会議は、運営上の具体且つ早期の対応を討議する機会として、2ヶ月に1回を基本に開催することが望まれます。自己・外部評価に基づく目標達成計画を開示し、今後の課題を検討するとともに、出席者のみでなく、地域や利用者等の意見や希望を、積極的に取り上げるシステムが望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との連携はできていない。	区担当者や地域包括との連携のもとに、ケースの受け入れなどに協力しています。また、大阪認知症高齢者グループホーム協議会に参加し、行政との情報の共有を図っています。	日常的に、区担当者・地域包括・区社会福祉協議会など関連部署との連携・情報交換を、一層強化することが望まれます。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は外部からの侵入防止のため施錠をしている。身体拘束をしないケアに努めている。	運用規程で「自他の生命・身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き」「身体的拘束その他行動を制限する行為を行わない」とし、重要事項説明書・契約書にも同様の記述がなされています。開設以来、一切の拘束的行為は行われていません。 また、拘束をなくすための、全職員を対象とする研修が実施され、その意義を十分理解し実践しています。居室の鍵は自分で開閉し、施設内は自由に行動できる構造になっています。施設の表玄関は、危険防止のため、24時間 暗証番号で管理されています。	拘束をしないケアが実践されていますが、利用者の思いや行動を制限しないという意味で、表玄関の施錠については、チャイムを取り付けるなど、何らかの工夫が望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法について研修にて学び、トイレ入浴介助時にあざ、傷などないか観察に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修は行ったが実際に行った経験はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明や話し合いの後、解約をするよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、家族さんとの意見交換を行ったり意見・苦情箱を置く対応をしている。	施設での生活状況等について、1ヶ月1回のニュース「たんぽぽ」で、家族に情報提供するとともに、面会時の会話や電話等による意見をまとめ、担当者会議に報告しています。運営推進会議でも、家族の意見を聞くことに努めています。重説事項説明書・掲示で苦情相談窓口を明示するとともに、行政機関等の苦情受付機関を示しています。また、意見箱を置くなど、気軽に意見が言えるよう配慮がされています。	特定の利用者に偏ることなく、多様な意見を取り入れるため、定期的なアンケートを実施するなど、もう一工夫が望まれます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案をスタッフ会議にて聞くように努めている。また、個人での聞き取りも受け付けている。	毎月1回の担当者会議で、ホームの運営や介護計画について、情報の共有化を図るとともに、介護日誌・引継ぎ書等を通じて、現場の意見を吸収し、運営に活かすよう努めています。限られたスタッフと予算の中で、全職員が質の向上にむけて、意欲をもって努めていることが伺われます。そのことは、家族のほとんどに「職員はいきいきしている」と映っていることから、類推されます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績の把握に努めている。スタッフの生活条件に十分配慮し勤務時間を調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設より実習を受け入れ、アドバイスや情報交換に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者さんの訴えるサインを見逃さないよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族さんからの要望などを聞いて安心して施設での生活を送れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」必要としている支援を見極めるためのコミュニケーションに力を入れ、表情や動作を見逃さないよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	相手を言葉で押さえず相手の意見、発言を聞き入れようと努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はお互いの意見に耳を傾け本人、家族の関係が崩れないよう支えていくよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人、場所との関係の維持はできている。面会でこられた場合は歓迎している。	人間関係・生活環境・趣味・好み・行きつけの場等、入所時のアセスメントに基づいて、その継続を大事にする支援に心がけています。習字やぬり絵など特技を活かしたり、近接地への外出支援等に努めるとともに、公衆電話を設置し、利用者本人が連絡を取りやすいような配慮がされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のトラブルがある場合、すぐに相談・対応に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご本人、家族の相談に応じている。遠方の方には、次第に支援をしなくなっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者さんの思い、希望になるべく応えるよう努めているが、全てに応えきることができず、思いも把握できていない。	入所時に、利用者や家族の、思い・希望・意向の把握に努め、職員で共有するようにしています。また 日常的な思いを、直接または、介護日誌等を通じて汲み取り、柔軟な支援に活かしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、家族さんや関わってきた方の話を聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活の流れの中で、心身状態、残存機能の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の課題を踏まえたケアなどについて会議で話し合い意見、アイデアに添い、介護を試みる。	入所時の、綿密なアセスメントにより、利用者の生活環境・人間関係・健康状態等とともに、思いや・希望・意向を把握し、その上にとって目標を設定しています。介護計画は、サービス担当者会議で検討され、家族等の同意を得ています。日常的な課題は、介護日誌等で把握し臨機に対応するとともに、2ヶ月に1回定期的な見直しを行っています。	詳細なアセスメントやモニタリングにより、介護の目標が設定され、利用者本位の介護計画が設定されていますが、アセスメント・立案・検討・同意・実施・臨機な対応・評価・見直しに至る過程をマニュアル化し、全職員・利用者・家族に示すことによって、介護計画の重要性を理解しあう事が必要と思われます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個人記録に記入し、どのようなケアを行えばよいか、情報共有は行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援やサービスの多機能化には取り組めていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域支援を活用した支援が出ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に往診を受け、適切な医療を受けるよう努めている。	隣接する同法人の特養の医師並びに医科・歯科の協力医療機関と提携し、定期的な往診や緊急措置を受けるなど、適切な医療を受けられるよう努めています。利用者が、かかりつけ医の受診を希望し、家族の同行が不可の場合は、適宜 受診支援をしています。受診結果は、記録するとともに、必ず家族へ連絡しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期の往診時に状況を伝え、相談に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院との関係づくりや入院時のケアマネ、ケースワーカーの方のみの関わりとなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方は各利用者さんの家族さんと話し合い、アンケートなどで希望は聞いている。	重度化によって、退去が止む無くなった場合は、「病院・介護老人施設の紹介」などの援助を行うことを、契約書に明記しています。また 早期の段階から家族の意向を聞き取り、特養・医療機関などと、支援の方向を検討しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当マニュアルの設置、緊急連絡先の確認のみしかできていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制は取れていないが消防訓練は実施している。	災害に備えて、耐震検査を受けるとともに、火災報知器・スプリンクラーやナースコールを設置する等の措置がとられています。防災マニュアルを備え、消防・避難訓練は、消防署立会いの下、特養との合同訓練を年2回実施し、内1回は夜間を想定して実施しています。	地域からの援助の受け入れと一時避難場所の提供など共助関係が出来ないか、検討の余地があるのではないかと思います。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重しプライバシーを損なわないような声かけ、対応に努めている。	理念に基づく基本指針に「一人ひとりが人として尊厳が守られるようプライバシーを尊重する」と定め、マニュアルに基づいて、日常の支援にあつたっています。各支援に当たっては、誇りや尊厳を傷つけないような、言葉かけや対応を心がけるとともに、一人ひとりの生活ペースに、出きるだけ添うよう配慮がされています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何がしたいか、どちらがいいかという本人の希望により自己決定ができるよう、働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大切にしているが、そのペースによる生活リズムの崩れが予測できる場合は、施設側のペースに戻し、また、本人ペースに戻す。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容ぐらいで、おしゃれはできていない。季節に応じての衣替えは行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全ての利用者さんとはではないが、一部の利用者さんとは準備、かたづけと一緒にできるよう努力している。	昼食・夕食は、隣接の特養で調理していますが、朝食はパンやお粥を施設で供しています。 月1回の昼食は、誕生会も兼ねた「お食事会」として、好みも聞きながら、ホームで調理しています。準備や片付けは、できるだけ利用者と協働するようにし、職員も一緒に食べながら、自然な雰囲気支援しています。食事時刻や時間は、利用者個々に合わせて、柔軟に対応しながら、食事の場所も希望にあわせるなど、好みが叶うよう配慮しています。	食材の買い物・調理・配食・片付け等、協力作業の機会を増やすため、食事会の回数を増やす等の工夫が望まれます。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分チェック表にて分摂取を管理している。水分摂取が困難な方にはとろみをつけて摂取しやすいようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはしていない。睡眠前のみ。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗のないよう時間ごとのトイレ誘導や本人なりの排泄のサインを見逃さないよう努めている。	利用者のほとんどが、何らかの支援を必要としています。アセスメントに基づく、個々のチェックシートにより、排泄時間を把握し、前もってトイレに誘導するよう努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操の時間を作り、水分も摂取していただけるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に添った入浴時間の設定は、できていないが一定時間での入浴は問題なくできている。	浴室は、個室でゆっくり入浴できる仕様になっています。入所時のアセスメント等で、利用者の趣向を把握し、できる限り習慣や好みにあった、個別の支援を心がけています。入浴は、運営規程で週2回以上と定め、希望に応じて入浴できるようになっており、シャワーも何時でも使えるようになっています。洗面器・シャンプーは、利用者の所持品を使っています。入浴を拒む場合は、清拭など適宜対応をするとともに、個室を拒否される場合は、特養の共同風呂を使うなど、意向に添った支援がされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じた休息や夜間も安眠できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が理解できるよう内服薬説明書ファイルを用意してある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の時間の過ごし方を尊重しつつ、また、日々の生活を楽しんでもらえるよう、役割、レクの支援などに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	野外での活動はできていないが、希望に添って散歩、買い物など近場での外出には、心がけて支援を行っている。	毎日 施設の周囲を散歩しています。施設の飼い犬の散歩をすることもあります。自治会・老人クラブの行事への参加や歌舞伎座見物などにも同行しています。買い物や公園散歩には、車椅子も使用しています。	ほとんどの利用者が、単独外出は困難な状態で、外出支援は重要な要素になっています。アンケートでは「よく出かけている」の回答が0の結果になっており、利用者や時間・行き先の固定化が見られないか検証の上、多くの利用者が外出を楽しむような支援が望まれます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者のひとりには、お金を所持しているが他の人は施設側が管理している。本人の必要とするものは購入することに努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話がかけられるよう公衆電話を置き制限など行わない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾り付けなどに配慮し、季節感を感じていただけるよう努めている。	特養施設が増築され、両側を挟まれたような外見ですが、屋内は廊下が広く、リビングルームには食卓やソファ・テレビが配置され、静かでゆとりある空間が提供されています。正月やクリスマス・七夕などには、飾りつけをして、季節感を楽しんでいます。調理室はオープンで、利用者が食事の準備を一緒に出来るようになってきました。 浴室・トイレは清潔に管理され、プライバシーの保護にも、十分配慮しています。	食後などに、午睡したり、瞑想したり出来る空間を演出するため、備品の配置や仕切りの見直し・BGMを流すなどの一工夫が期待されます。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で一人になれる居場所の工夫はできていないが、気のあった利用者同士の居場所、テーブルの配置には工夫に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の見慣れたもの、使い慣れたものを持ち込んでいただき、安心感を持って頂けるよう努めている。	居室は、洋間仕様になっていますが、畳の持ち込みや実費による一定の模様替えも出来ます。入所にあたっては、生活の継続性と馴染みを大事にし、ベッドや筆筒・鏡台・仏壇・テレビ等の使い慣れた備品の持ち込みを勧め、居住環境の変化に戸惑わないよう配慮しています。利用者本人が、内外から施錠できることによって、プライバシーを保つとともに、ナースコールを設置し緊急事態に備えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な生活は送れているが、一人ひとりの「できること」「わかること」は活かしていない。		